

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
授業・セミナー開催報告書①

報告日：2019年 3月 27日

招聘者氏名	種村 留美
被招聘者氏名	Dr. Gabriele Schwarze ¹⁾ , Dr. Anna Brorsson ²⁾ , Dr. Margarita Mondaca ²⁾ , Dr. Hsiu-Yun Hsu ³⁾ , Dr. Supawadee Puttitorn, Dr. Suchitoporn Lersilp ⁴⁾
被招聘者 所属機関・職位	1. FH Joanneum University of Applied Sciences, Head of Institute and Degree programme Occupational Therapy 2. Division of Occupational Therapy, Karolinska Institutet, Assistant Professor, 3. National Cheng Kung University, Clinical Assistant Professor 4. Faculty of Occupational Therapy, Chiang Mai University, Associate Professor
日時	2019年3月25日 第1部10時-11時30分、第2部13時-17時
場所	神戸大学保健学研究科 B202
参加者	参加者 24 名（招聘者 6 名含む）（うち女性教職員 7 名、女性院生 6 名、海外女性研究者 7 名）
<p>【Occupational Therapy (OT) ワークショップ内容】</p> <p>保健学研究科B202教室において、国際ワークショップ「OTワークショップ」を開催した。</p> <p>第1部では、Dr. Gabriele SchwarzeよりオーストリアのOTの状況（教育機関は公的機関のみ、全体でまだ3000人など）、FH Joanneum UniversityのOT課程の説明（3学年6セメスター制、科目の説明など）、学生教育に関するCooperatiiveOnline Peer-assisted Intercultural Learning in Occupational Therapy:や食事に関するプロジェクトなどの説明があった。Dr. Anna Brorssonより、カロリンスカ研究所のOT科の中での研究プロジェクトについての説明（高齢社会における認知的なアクセシビリティ、Everyday Technologyなどの神戸大学を含む国際的な共同研究）およびAnna氏自身の認知症にやさしいグローサリーショップの研究について説明があった。また Dr. Margarita Mondacaは、スウェーデンのOT状況（9000人のOT、7つの大学がある、3年生および6セメスター制、授業料が無料など）、自身のナーシングホームにおける高齢者の住まいに関する研究などの説明があった。</p> <p>第2部では、Dr. Hsiu-Yun Hsuにより、台湾は1970年からOTがスタートしたこと、国立成功大学は学士課程4年制、修士・博士課程があること、カリキュラムの説明などがあった。また自身の研究は、障害者の上肢機能の評価開発やVRを用いたフィードバック研究などの紹介があった。チェンマイ大学のDr. Supawadee Puttitorn, Dr. Suchitoporn Lersilpからは、チェンマイ大学OT科の説明（1975年に制定、31人のスタッフ、学生課程4年制、修士課程、臨床実習体制、Global Exchangeなど）やチェンマイ大学での研究；Mobile EmergencyやHome Safety Managementの紹介があった。最後に種村より、日本のOT法制定が1965年に制定されたこと、現在9万人のOTがいること、生涯教育制を設けていることなど、神戸大学保健学科のOT養成課程の内容、カロリンスカ研究所との共同研究内容、FH Joanneumとの学生Exchangeについて報告し、これからも国際的な関係性をさまざまな大学と持っていきたいことを説明した。3時からのディスカッションにおいても、OT教育について活発な意見が交わされ、各国の共通点、それぞれの特異性などについて議論がなされた。</p>	

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
授業・セミナー開催報告書②

報告日：2019年 3月 28日

招聘者氏名	種村 留美、上杉 裕子
被招聘者氏名	Dr. Lena Rosenberg ¹⁾ 、Dr. Gabriele Schwarze ²⁾ 、 Dr. Hsiu-Yun Hsu ³⁾ 、Dr. Patcharee Woragidpoonpol ⁴⁾
被招聘者 所属機関・職位	5. Division of Occupational Therapy, Karolinska Institutet, Assistant Professor 6. FH Joanneum University of Applied Sciences, Head of Institute and Degree programme Occupational Therapy 7. National Cheng Kung University, Clinical Assistant Professor 8. Faculty of Nursing, Chiang Mai University, Associate Professor
日時	2019年3月22日 13時-17時
場所	神戸ポートピアホテル 和楽
参加者	全員 83名（うち女性教員15名、女性院生18名、女性学部生 6名）
<p>シンポジウム内容</p> <p>神戸ポートピアホテル、和楽において、国際シンポジウム 「The Support for Gender and Vulnerability of the aging society 少子・高齢社会のジェンダーと脆弱性サポート」を行った。</p> <p>第1部は、「The support for elderly in Sweden」のタイトルで、Dr. Lena Rosenbergより基調講演をいただいた。スウェーデンの高齢者ケアの特徴が詳細に紹介され、自宅でのケア、施設でのケアの特徴が示されていた。</p> <p>第2部は「語る・つながる少子高齢社会」と題され、日本人を含む4人のシンポジストより講演がなされたが、そのうち3人は被招聘者Dr. Gabriele Schwarze、Dr. Hsiu-Yun Hsu、Dr. Patcharee Woragidpoonpolであった。</p> <p>Dr. Gabriele Schwarzより「Supporting the Ageing Society in Austria」のタイトルでオーストリアの高齢化の現状と、独居高齢者、ケアの必要な高齢者、ケアギバーに向けての介入などが紹介された。</p> <p>Dr. Hsiu-Yun Hsuからは「The contexts of the women researcher and the support system for elderly in Taiwan」のタイトルで女性研究者の困難性について数字を示しながら課題を提示され、女性研究者のための取り組みの重要性が示されていた。台湾の認知症高齢者へのデジタルデバイスを用いた介入研究なども紹介された。</p> <p>Dr. Patcharee Woragidpoonpolからは、「Development of empowering early childhood primary caregiver capacity program in skipped-generation family: grandparents raising grandchildren in Thailand」のタイトルにより、働く両親が不在になり高齢者が子育てを担うことの問題と取り組むべき課題が示され、高齢者の問題を家族の枠組みで検討することの重要性が示されていた。</p> <p>神戸大学保健学研究科の教員、大学院生、学部生が多数参加し、作業療法学、看護学の双方からの意見交換に加え、お互いの研究の発展に向け活発に意見交換がなされ、将来の共同研究への可能性も示すことができた。</p>	